

ノボキニン蓄積イネの栽培実験
(栽培実験期間：令和2年度)

確認項目	確認結果	
交雑防止措置について	○交雑防止措置について	農研機構生物機能利用研究部門の本栽培実験は、農研機構観音台第1事業場高機能隔離圃場、農研機構観音台第2事業場隔離ほ場及び農研機構観音台第3事業場組換え植物隔離ほ場において隔離距離による交雑防止措置を取り、事業場内の同種栽培作物までの距離が30m以上であることを確認しました。また、事業場外の最も近い水田との距離は農研機構観音台第1事業場高機能隔離圃場は250m以上、農研機構観音台第2事業場隔離ほ場は200m以上、農研機構観音台第3事業場組換え植物隔離ほ場は500m以上であることを確認しました。
	○選定場所における風の影響について	栽培実験区画は、過去のデータから、イネの開花期における平均風速が毎秒3mを超えないことを確認しました。
	○開花前の低温により交雑の可能性が想定される場合の措置について	交雑の可能性が想定されるような低温にはならなかったことを確認しました。
	○モニタリング措置について	モニタリング用の指標作物の種子を、第1事業場では14,096粒、第2事業場では13,167粒、第3事業場では11,590粒調査した結果、交雑が認められなかったことを確認しました。
混入・拡散防止措置について	○実験の種子、種苗の分別管理、野鳥等の食害による拡散防止について	実験の種子は、遺伝子組換え実験材料である旨を表示した密閉容器に入れ、他の種子と区分して管理していることを確認しました。 隔離ほ場では、田植えから収穫まで防鳥網を設置して、野鳥等の食害による拡散を防止したことを確認しました。
	○栽培実験に用いた機械施設等の洗浄等について	実験区画内で使用した機械等は、同区画内で付着物を払い落としした後、隔離ほ場内の洗い場で洗浄したこと、被服等は栽培実験区画付近で払い落としを行ったことを確認しました。
	○第1種使用規程承認作物の収穫物の管理について	収穫物は、遺伝子組換え実験材料である旨を表示した密閉容器に入れ、他の実験の収穫物と区分して実験室内で保管・管理していることを確認しました。
	○栽培実験終了後の第1種使用規程承認作物等の処理等について	栽培を終了した植物体の地上部は、地下部とともに裁断の上水田へ鋤込む、オートクレーブ又は焼却により不活化したことを確認しました。
	○第1種使用規程承認作物を栽培した区画での後作の収穫物の取り扱いについて	令和2年度は後作を行わないこと、また、次年度作として遺伝子組換えイネの栽培を予定しており、引き続き「第1種使用規程承認組換え作物栽培実験指針」に沿って取り扱うことを確認しました。
栽培実験に係る情報提供について	○計画書の公表について	令和2年6月5日にプレスリリースにより公表したこと、同日に農研機構のホームページに掲載されたことを確認しました。
	○説明会の開催等について	説明会が、令和2年6月24日に開催されたことを確認しました。また、本実験への問い合わせの対応及び見学の受け入れを実施している事を確認しました。
	○栽培実験の経過に関する情報提供について	説明会の開催を含め、本栽培実験の経過等について、19件の情報が農研機構のホームページに掲載されたことを確認しました。
	○栽培実験を終了した後の情報提供について	本栽培実験における収穫後の処理等について、令和3年2月10日に農研機構のホームページに掲載されたこと、また、本栽培実験の結果について、令和3年4月5日にホームページに掲載されたことを確認しました。
栽培実験に係る管理体制の整備について	○栽培実験に係る管理体制の整備について	栽培実験責任者、作業管理主任者及び情報提供主任者を指名して、管理体制を整備していることを確認しました。

(参考) 農研機構の栽培実験に係る情報提供について

「第1種使用規程承認組換え作物栽培実験指針」では、栽培実験の開始前から終了に至るまで適宜、情報提供することとしています。

令和2年度の本栽培実験に係る情報は、農研機構ホームページ（以下のURL）にてご覧いただけます。

https://www.naro.go.jp/laboratory/nias/gmo/news/gene_recombination/index.html

以下に、掲載されている情報の一部をご紹介します。



田植えの様子
(令和2年7月10日情報提供)



栽培の様子
(令和2年8月26日情報提供)



収穫の様子
(令和2年10月13日情報提供)